

グループホーム暖らん 令和6年度第2回 運営推進会議

日時：令和6年7月26日（金曜） 15時00分～

出席者（敬称を略させていただきます）

民生児童委員

地域委員

出雲市高齢者福祉課

出雲市高齢者あんしん支援センター

理事長

ご利用者ご家族

管理者

1. 利用状況（7月26日現在）

○ 現入居者 8名（定員9名）

年齢別

平均91.1歳

	男	女
80歳代	1	1
90歳代	1	5

要介護度別

平均要介護度2.4

	男	女
要介護1	1	0
要介護2	1	2
要介護3	0	4
要介護4	0	0
要介護5	0	0

○ 利用待機者 7名

2. 入居者について

6月半ばに新規ご利用者が入居されました。

7月初めに呼吸器疾患で入院、加療されていたご利用者が同月半ばに逝去されました。

新規入居に向けて申し込みリストやお問い合わせの方などにお聞きしているところです。

3. 5月以降の主な行事や活動

詳細は別紙「暖らん便り」no.29をご覧ください。

三味線演奏会、さつま芋の苗植え、笹巻作り、日本舞踊鑑賞などがありました。

4. 見守りカメラについて

現状では2つの見守りカメラを設置しています。1台目は日中・夜間ともに活動性高く、居室から出てこられることが多いA様。2台目は日中の活動性は低いですが夜間など突発的に居室から出てこられるB様。A様は頻回にセンサーが鳴り居室から出てこられるため事前に動向を確認するためにも見守りカメラを継続して利用する必要があると考えています。B様は以前よりは居室から出てこられる回数は減っていますが、日によって活動性が高い日もあり、夜間など限定的にカメラの使用が求められると考えています。また、両名とも過去に暖らんでの転倒歴があり、現在も歩行器を使用せず居室から独歩で歩いて出てこられることが多々見られ、転倒のリスクは非

常に高いと考えられます。ご利用者の活動量の把握や転倒防止のためにも引き続き見守りカメラの使用を考えています。5月の身体拘束研修や6月の職員会議でも身体拘束ゼロ委員会・虐待防止委員会でも見守りカメラのことを話し合いました。今回の運営推進会議でも見守りカメラの継続利用について皆様のご意見を伺いたいと考えております。よろしくお願いいたします。

5. 研修

- ・感染症対策（6月24日 職員会）
- ・実践者研修（管理者）（6月24日～25日）（出雲）
- ・甲種防火管理者講習(管理者)（7月10日～11日）（三刀屋）
- ・ボディメカニクス（7月19日 職員会）

6. その他

委員：見守りカメラという方法で見守りを行っている施設はめずらしいと思います。センサーと同時に使用するメリットはありますか。

回答：センサーは赤外線式で利用者の下肢や布団が少しベッド下にでると鳴ることがあります。その時にカメラで居室の様子が分かると訪室する必要があるか事前に判断できます。センサーのみの場合だと訪室回数が増え午睡や就寝中の利用者を起こしてしまいますが、見守りカメラを併用することでそのような事例が減少しました。

委員：事業所外での研修について、主に管理者が受けていますが他の職員の研修については何かありますか。

回答：他の職員については現在のところは事業所内での研修が中心となっています。職員会議などで研修の受講を提案したり、主任に率先して受講していただき今後は事業所内のスキルアップを図っていきます。